

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 看護学科

名 前 田代 和子

作成日 2023年9月28日

1. 責務 (何を行っているか、何を果たしているか)

担当科目：老年看護学概論（1学年必修）、老年看護援助論Ⅰ（2学年必修）、老年看護援助論Ⅱ（2学年必修）、老年看護学実習Ⅰ（2学年必修）、老年看護学実習Ⅱ（3学年必修）、統合実習（4学年必修）、看護研究Ⅱ（4学年必修）、認知症ケア論（3学年選択）、家族看護学（2学年必修）

教育活動：看護学科教務委員会委員、学習支援・国家試験対策委員会委員、FD委員会委員、図書委員会委員、2学年担任

2. 理念 (教育に対する考え方)

日本は世界有数の超高齢社会に直面しており、様々な社会的問題が山積している現状にあります。そのようななかで、高齢者の方々を取り巻く社会環境や疾病構造も刻々と変化しています。高齢者の方々がのぞむ住み慣れた地域社会でその人らしく、豊かな生活を送ることができるような社会との共生を考えていく看護を目指しています。老年期は高齢者の方々個々の生活過程や習慣、社会との関わり方、全てが反映される人生の集大成の時期といえます。このような時期を生きぬく高齢者やその家族を支えることができるための看護支援を学生とともに考えていきます。

3. 方法 (教育方法において大切にしていること)

老年看護を学ぶ上で前提となることは、高齢者の方々を正しい知識のもとに理解することが重要です。しかし、現代の学生の多くが核家族のなかで育ち、経験したことの少ない老年期にある人々を外観や弱者といったマイナスイメージでとらえること多い状況です。そのため、できる限り高齢期にある人々をイメージしやすいように映像や実践事例、および高齢者をゲストスピーカーとして招き、生の声をきくことで、高齢者が必ずしも社会的弱者でなく、多くの方々が社会で自立した生活者であるといった視点でとらえることができるよう教育方法を工夫しています。そのうえで、高齢者に特有な病気や障害を学んだ後、それらを持ちながら生きる高齢者とその家族の健康生活を支える看護を実践していくための知識や技術についての学習をしていきます。講義だけではなく写真のような演習や病院・高齢者施設などでの実習を通じた体験などアクティブラーニングを活用しながら学びます。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

毎回の授業終了後におけるミニテストの結果を踏まえて授業内容のフィードバックをおこない、理解しにくい箇所を補います。また、全授業終了後の授業アンケート（FD）結果を踏まえて、年度ごとに自己評価・分析をして次年度に生かしています。さらに定期試験の結果や年度末に実施される模擬試験等で担当教科の理解度を確認し不正解率の高い設問について解説、授業方法の工夫を行います。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

- 1) 2023 年度末まで：担当する授業科目の専門分野に関する知識および能力を養うため学内外で実施される研修会や学術集会学会への参加をおこないます。
- 2) 2023 年度末まで：老年看護領域の教員と連携して、2024 年度から新規実習施設（老年看護学実習Ⅱ老人福祉センターおよび病院）の交渉をおこない効果的な臨地実習がおこなえるための臨地実習要項の作成および現場の担当者との打ち合わせを密に行います。
- 3) 2023 年度末まで：担当する授業評価について、授業アンケートをもとに実施し、次年度の授業案作成の指針とします。

【添付資料】

- * TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。）